

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第75回本部会議 記録

日 時／令和3年9月8日（水）

15：30～15：47

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第75回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

資料1をご覧くださいと思います。道の警戒ステージの指標についてでございますが、前の週と比較いたしますと、昨日時点で、重症者用病床の使用率を除きます全ての指標で前の週より改善しておりますが、新規感染者数及び療養者数はステージ4の目安を上回るとともに病床使用率及び入院率は、ステージ3の目安を上回っているという状況になります。

続いて、特定措置区域の主な指標の状況ですけれども、札幌市においては、重症者用病床の使用率を除き、全ての指標で前の週を下回っておりますが、新規感染者数及び療養者数に加えまして、病床利用率と入院率でステージ4の目安を上回っている状況でありまして、厳しい状況が続いているという状況です。札幌市以外の特定措置区域については、感染経路不明割合や重症者用病床の使用率を除きまして、前の週より改善しておりますけれども、旭川市の新規感染者数や療養者数など、ステージ4の目安を上回っているものもあるという状況になっています。

総評です。全道の新規感染者数ですが、11日連続で先週比が1を下回るなど減少傾向が見られています。しかしながら、人口10万人当たり31人と国のステージIVの目安を超えており、依然、高い水準にあるという状況です。また、各地域において、引き続き、事業所や学校における集団感染が確認されております。特定措置区域の新規感染者数については減少傾向が見られますが、引き続き、全体の約70%を占めており、全体を押し上げているという状況です。主要な地点におけます人流ですが、緊急事態宣言前と比較して減少が見られています。

医療提供体制です。全道の療養者数は、減少傾向にあるものの、依然として国のステージIVの目安を超えて高い水準にあります。入院患者についても減少傾向にあるものの、札幌市内の病床使用率は50%を越え、厳しい状況が続いている。さらに重症者については、増加が見られ、療養者の症状の悪化などによって、今後の更なる増加も懸念されているという状況です。

ワクチン接種ですけれども、道内におけます接種率ですが、9月6日現在、1回目50.4%、2回目40.0%と、VRSベースで全道民の半数を超える方が1回目接種を終えているという状況になります。

続いて、今後の対策ですが、新規感染者の減少を確実なものとするため、最大限の警戒レベルを維持し、人と人との接触を低減し、感染の抑制を図ってまいります。特に特定措置区域におきましては、市町村と連携して、飲食店への見回りなど措置の徹底に取り組んでまいります。また、一般措置区域においても、地域の感染状況を踏まえた注意喚起など、

機動的に取り組んでまいります。

引き続き、児童生徒の感染確認が続いており、児童生徒や家族の健康観察の徹底、感染者が出た場合の迅速かつ幅広い休業措置と検査の徹底、部活動における感染防止対策の全校指導体制の確立など、学校におけます感染対策の一層の徹底を図ってまいります。

北海道が緊急事態宣言下にあることを踏まえまして、来道を検討されている方に対して、SNSなどを活用し、慎重な対応を働きかけてまいります。

地域において、病床や宿泊療養施設の確保、医療従事者の最適な配置などに取り組むとともに、自宅で療養する方に対して、保健所による健康観察の徹底や必要に応じた在宅医療の提供、症状悪化時の迅速な対応など、万全の支援を行ってまいります。

ワクチンの供給について、対象人口の概ね8割程度以上が接種できる量の見通しが立つ中、道のワクチン接種センターにおけます一般向け接種の実施やアストラゼネカ社製ワクチンの接種開始、職域接種・大学拠点接種の支援など、今後とも、市町村や関係機関とともに、希望する方が一日も早くワクチンを接種できる環境づくりに取り組んでまいります。

次に、スライド5以降について、何点か補足して説明いたしますと、まずスライド7です。新規感染者と感染経路不明割合についてですけれども、新規感染者ですが、8月20日前後から減少傾向にありまして、感染経路不明割合についても、ここ1ヶ月、減少傾向にあり、他の地域においても、同様の傾向が見られるという状況です。

次にスライド13です。年代別の感染者数ですけれども、20代から30代の割合が引き続き高く、直近で感染者全体の40.4%を占めておりますけれども、その割合は徐々に減少している。一方、60代以上の方ですけれども、本年4月のピーク時に比べ、直近で9.5%と低い水準となっておりますけれども、足下でやや増加傾向にあるという状況です。

続いて検査の状況です。直近の検査数ですけれども、週合計で34,811と引き続き高い水準にございますが、陽性率は8月中旬をピークに減少を続けておりまして、直近で4.6%という状況になっています。

続いて、ワクチンの接種の状況です。まず、ワクチンの供給状況ですけれども、9月7日にファイザー社製ワクチンの第15クルの道内市町村への配分を決定いたしまして、各市町村へもお示ししております。今回の配分によりまして、職域接種等も考慮いたしますと、各市町村の接種対象人口の概ね8割程度以上の方が接種できる供給量となる見込みでございます。

続いて、8月23日から一般向けの接種として再開しておりますワクチン接種センターですけれども、第3週の予約率ですが、96.0%となっています。

また、アストラゼネカ社製ワクチンについてですが、本日9時現在の登録者数は387名となっておりますが、これまで登録上限に達したため現在は受付を一旦休止しておりますけれども、その後のキャンセル等も発生しておりますことから、本日中にも受付を再開する予定としております。また、2カ所目の接種会場といたしまして、新たに手稲溪仁会病院を追加したところであります。希望登録については、同病院分も含めまして、一括して引き続き、道が受け付けや接種会場、日程の調整を行うこととしております。また、同ワクチンについてですけれども、今週末の9月11日(土)の北海道ワクチン接種センターでの接種開始を皮切りに、まずは月内に最大500人を対象に、2つの会場で順次1回目の接種を進めていく予定としております。

その他のスライドでございますけれども、先ほど説明した内容に関しますデータを掲載しておりますので、のちほどご覧いただければと思います。

資料1の説明は以上となります。続いて、お手元の資料2をご覧いただければと思います。先ほどの資料1に関しまして、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や

関係団体にも事前にお知らせしております。

有識者、専門家の方々からは、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますけれども、その主なものをご紹介しますと、(1-①) シルバーウィークを控え、人の動きが活発になることが予想される。学校等のクラスターもあり、もう少し我慢が必要ではないかといったご意見。(1-③) 新規感染者数が減少傾向にあるが、クラスターが依然発生するなど、緊急事態宣言の延長は避けられないと考える。(1-⑦) 感染者数の減少傾向は明らかだが、決して楽観視できるレベルではなく、少なくとも今年6月下旬の水準まで低減するよう対策を継続する必要があるといったご意見をいただいております。

また、市町村、関係団体からでございますけれども、(2-①) 感染者数の減少は、ワクチン接種の進捗が大きく関係していると思われるので、引き続き接種が進まない市町村に道が積極的に関与し、接種の促進を図る必要があるといったご意見が寄せられております。こうしたご意見については、今後の取組の参考としてまいりたいと考えてございます。

私からの説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております山口感染症担当部長から説明をお願いします。

【山口札幌市感染症担当部長】

資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明いたします。

最初のスライドをご覧ください。新規感染者数でございますが、昨日、9月7日時点の1週間の合計でございますが、895人となっております。そのうちリンクなしの人数は336人で、その割合は37.5%となっております。今週に入りまして、1日の新規感染者数は100人台を下回り、減少が見られているところでありますが、人口10万人当たりの人数では45.6人と、国および道のステージ4の目安であります25人を大きく上回っている状況でありまして、さらなる新規感染者数の減少に向けた取組の継続が必要と考えてございます。

次のページをご覧ください。札幌市内の入院患者数の状況などにつきまして、昨日時点の入院患者数、これは黄色い棒グラフでございますが、325人でございます。重症患者数、赤の折れ線グラフであります。これまでの感染拡大におきましては、入院患者数は新規感染者数がピークを迎えた後にピークを迎えることになっておりまして、また、新規感染者数と比較いたしますと、今回もそうでありますけれども、この入院患者数はなかなか下がりきらない状況が続いております。今回の第5波では現時点でも入院患者数は高止まりでありまして、依然として医療供給体制は厳しい状況にあることは変わらないという状況でございます。

それでは最後のスライドをご覧ください。検査数についてでございますが、直近の1週間の検査数でございますが、16,759件ございまして、陽性率は昨日時点で5.3%と、札幌市が目標としております5%未満には近づくとともに減少しているところでございます。

市内の感染状況は、デルタ株にほぼ置き換わっている状況ございまして、感染が増加に転じないように、人と人との接触の機会を減らすことが必要であり、今月下旬には連休も控えていることから、不要不急の都道府県間の移動を極力控えるなど、引き続き人の動きの抑制が必要であるというふうに考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

この他、各部、振興局等からご発言があればお願いいたします。なければ、本部長からお話しをお願いします

【本部長（知事）】

緊急事態宣言の期限まであと4日という状況であります。現在の本道の新規感染者数、減少傾向であります。昨日の新規感染者数が137人、人口10万人当たりでいうと30.9人という状況になっています。本日の新規感染者数、180人という状況になっていますので、人口10万人当たりでいうと、27.7人という状況になっています。一時期と比べて大きく新規感染者数、減少しているという状況にあります。道民の皆様、事業者の方々のご協力に、心から感謝申し上げたいと思います。地方本部におかれても、皆様の取組に感謝を申し上げます。

しかしながら、新規感染者数は依然、全道で緊急事態宣言、この目安である人口10万人当たり25人というこの基準を超えています。また、病床使用率、北海道全体では国のステージⅣ、これを下回っているという状況にあるのですが、療養者数、こちら大きく上回っているという状況になっています。特に先ほどご説明ありましたが、札幌市においては、新規感染者数、病床の使用率、療養者数、これら全てステージⅣ、この目安を超えています。そして、重症の方、これが増加しております。厳しい状況が続いているという状況があります。

また、本道は、首都圏をはじめとする他県との往来が多いといった中で、全国的に感染者数、災害レベルと言われるそういった高い水準にあります。他県の感染拡大の影響を強く受ける、そういう特性、こういったものも踏まえていかなければならないというふうに考えています。

これまで国においては、緊急事態宣言の解除等について、この解除の考え方、どういう形で解除されるのかということを示してほしいということで、繰り返し、国には求めてまいりました。基本的対処方針に基づいて国においては、慎重かつ総合的に判断をするというふうにされてきました。これに加えて、ワクチンの接種状況、そして重症者数などを分析をすること、さらに、本日でありますけれども、国の分科会において、緊急事態措置の解除の考え方ということで、先ほど急遽と言いますか、示されたところでございます。この分科会におきまして、先ほど尾身会長ですか、お話しをされていたということでございますけれども、緊急事態宣言の解除に当たって、新規感染者に加えて、医療のひっ迫をより重視をしていくこと、そして、リバウンドも考慮して、慎重に解除することが必要だということが、合意されたということでもあります。これは先ほどの分科会の後に記者団に話があったということでもあります。

今後、国においては、こうした専門家の議論、こういったものも踏まえて、その緊急事態宣言の解除などを判断されるということとなるわけではありますが、この緊急事態宣言が解除されるかどうかということやまん延防止等重点措置に移行するかどうかということに関心が集まっているところがあるのですけれども、最も重要なのは13日以降の緊急事態措置やまん延防止等重点措置の内容、どういう内容になるのか、さらにはその措置の期間、これがまったく明らかになっていないという状況になっています。今はそういう状況でございます。

そういった中で、私といたしましては、現在の感染状況を踏まえたと、9月13日以降についても、直ちに強い措置を解除できる状況にないというふうに考えています。今後、基本的対処方針の変更、これを踏まえて、国としてどのような対応を行っていくのか、こ

の点を慎重に見極めていく必要があるというふうに考えています。各本部員においては、引き続き、国の検討状況、これを踏まえながら、13日以降の対策につきまして、検討を進めるように指示をいたします。

また、緊急事態宣言の期間、9月12日までございます。各本部員、地方本部員においては、引き続き高い警戒感を維持をし、あと4日間、緊急事態宣言の下で新規感染者数の減少を確実なものとするために、市町村と連携をして、対策の徹底を図っていただきたいと思っております。

最後にワクチンについてであります。対象人口の概ね8割以上が接種をできる量のワクチン供給の見通しが立ったところでございます。国においても、ワクチンの接種状況を踏まえた制限の緩和に向けた検討、これが進められています。この点についても国から情報収集を行いながら、道としても課題を整理するように指示をいたします。ワクチン接種推進、一層重要になっております。道として、引き続き、希望される方の1日も早い接種、これに向けまして、きめ細かに市町村をサポートしてほしいと思っております。

私からは以上であります。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示があった事項につきまして、各本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部の第75回本部会議を終了いたします。

(了)